

リニア新幹線NEWS No. 1 / リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会発行
think-linear2@yahoogroups.jp

相模原・東京で説明会、疑問・不安に具体的回答無し

JR東海「すべて詳細は準備書を待て」

8月21日、相模原市橋本駅前の「杜のホール」で、神奈川県と県リニア中央新幹線建設促進期成同盟会の主催で「リニア中央新幹線神奈川説明会」が開かれた。460名が参加したが、半数は期成同盟会に参加する県や市職員、地元経済団体、JR東海社員と見られた。東京神奈川連絡会と相模原連絡会から約20人が出席、質問者は12人、その半数が私たちの会員だった。前半1時間はJR東海によるリニア計画の説明。一年前の住民説明会の概要説明と変わらない内容だった。この日明らかになったのは、期成同盟会が期待する「地元の振興」につながる約束を何一つJR東海から得ていないことだった。まず、橋本駅地下に建設を要望している新駅についても、JR東海は「5^{キロ}圏内で考えている」。1時間に5本止めるようにという要望に対しても「ダイヤは開業時に明らかにする」というすげない回答だった。その他、正式ルート(現状=3^{キロ}幅)、立坑建設場所(同=5~10^{キロ}おき)、トンネル残土処理法など、沿線住民が知りたい事項について、「環境影響調査の結果を踏まえ、準備書で明らかにする」(予定では来年秋)と、一切計画の詳細を明らかにしなかった。

エッ！「火がついたまま次の駅まで突っ走る」

9月20日、東京千代田区の「東商ホール」で、「リニア新幹線東京説明会」が開かれ主催者側発表では400人が参加した。参加者のうち、動員された人は相模原市の説明会より多かった。途中で帰る人が増え、質問になると空席が目立った。質問者は15人。連絡会からは10名が参加、全員が発言、意見を述べた。主催者のJR東海は、山梨(甲府)、長野(飯田)、岐阜(中津川)、神奈川(相模原)、愛知(名古屋)の各県の説明会で質問が集中した「消費電力、

磁界、地震・火災等異常時対応について重点的に説明する」として、対策を説明したが、その内容は、「電力はピーク時で27万^{キロ}ワット、発車時の電力はその10分の1である。電力は現在の東電、中電の供給余力で十分まかなえる」。「磁界はICNIRPのガイドラインの6~50分の1であり、健康への影響はない」。「地震に対して大深度を浮上走行するリニアは強い。トンネルも強化するので壊れない。火災の際は、乗客は軌道下の空間を通過して、立坑や斜坑から避難する」。原発電力に頼らないのか？磁界の国際・国内基準が甘すぎるのでは？高齢者や車椅子の人をどうやって避難させるのか？というこれまで多く出ている疑問には全く答えなかった。何よりも驚いたのは車両が火災を起こした時の対策だった。「車両に火がついた時はとに角、最寄りの駅まで突っ走る」そうだ。これでは駅も燃えて多くの犠牲者が出るのではないか。JR東海・葛西会長はガチガチの原発推進論者で、その再稼働を主張している。リニアの消費電力につき、原発3~4基分という専門家もいる。リニアが抱える基本的な問題点について、JR東海は、私たちを納得させる説明が出来ていない。採算や経済効果について根拠が示されていない。

相模原説明会前に橋本駅でビラ配布

8月21日の神奈川説明会の直前、会場前のJR橋本駅デッキで、東京・神奈川連絡会と相模原連絡会がリニア新幹線計画を追及するビラを共同で配布した。相模原市では、駅の場所について、黒岩県知事と加山市長が「橋本駅地下に新駅」とJR東海に要請しており、また経済効果を過大に宣伝する立派な冊子を撒いていることもあってか、市民のリニアへの関心も高いが、相原高校の移転問題もあって、疑問視する市民も増えている。千枚のビラは1時間で無くなった。

立坑が王禅寺付近につくられるのは確実？、高まる不安の声

～麻生区でリニア問題で初の住民交流集会～

9月17日、住民の皆さんら100人が参加

9月17日、川崎市麻生区のヨネッティ王禅寺で開かれ、休日午後、変わりやすい天候にもかかわらず、約100人が参加した。リニアについて住民に直接問題を訴え、要望を聞き話し合う集まりは初めて。王禅寺や東百合丘など地域住民は、川崎市内に3か所建設される立坑の一つが、付近に出来るのではないかと不安を高めている。また、リニア新幹線が地下40mの大深度トンネルを通過することを知らない人も多く、連絡会の麻生、宮前各会では今回の企画を考え、7月以来、町内会・自治会に開催を知らせ、また田園都市線沿線で集会のチラシを配布してきた。更に、9月に入って、リニア担当の川崎市まちづくり局や川崎市議会各派に「市民・住民の声を聴いてほしい」と参加を呼び掛けてきた。この日も、期成同盟会に名を連ねる市・まちづくり局のリニア担当者は、「個別の集まりには参加できない」として出席しなかったが、趣旨に賛同する党派や無所属の市議が出席し、熱心に参加者の声に耳を傾けた。

辻村千尋氏「環境影響評価の手續に問題あり」

集会では、主催者を代表して宮前の会の山本太三雄さんが挨拶、開催迄の経緯を説明。「JR東海や市が住民に正確な情報を知らせていない。今日の集まりを契機に、リニアの問題点を明らかにしたい」と訴えた。このあと、自然保護協会の辻村千尋氏が「リニア新幹線の問題点」というテーマで講演した。辻村氏は長年、環境行政や自然保護運動とかかわってきた経験から、現在の環境影響評価(アセスメント)制度のあり方に大きな問題があり、「アメリカでは事業計画段階でアセスメントがあり、住民の声を計画に生かしたり、中止できるが、日本では計画が決まった後でアセスをする、計画ありきの制度になっており、住民の立場に立ったアセスができないと指摘。リニアのアセス手続きには、住民の意見が全く反映されていない。このままでは自然も破壊される。着工迄に計画を止めなければならない」と強調した。

JR東海社員もリニア計画に反対

集会ではJR東海労の小林光昭書記長が立って、JR東海のリニア中央新幹線計画の財政的影響や安全対策の不備について指摘した。東日本大震災の直後は、ガソリンなどの燃料や救援物資の輸送に鉄道が使われた。ところが、リニア新幹線は貨物を運べない。老朽化に伴う東海道新幹線のバイパスという会社の説明はおかしい。ゼロ成長、人口減などでリニアの乗客が増えるとは思えない。第二の日航になる恐れがあるなど、リニア計画の問題点を挙げた。社員が反対している事業を住民に納得させられるとは思えない。このあと、住民の方からも「今後リニア問題にどうかかわったらいいのか」「私たちに出来ることはないか」などの意見があった。

JR東海の王禅寺周辺環境調査地点を視察

集会前の午前中、環境影響調査地点を視察した。38人が参加した。川崎市内では中原区等々力、宮前区犬蔵、潮見台、麻生区王禅寺で調査が行われている。水質・地質調査のため100m以上のボーリングのための櫓が作られているが、市も関与できず公平、透明性のある調査とはなっていない。

.....

30日、甲府市で初のリニア沿線住民交流会

＜今後の活動スケジュール＞

9月30日(日) リニア沿線住民交流集会in甲府
東京・神奈川連絡会から20名参加予定
甲府、飯田、大鹿村、中津川などから
リニア問題活動市民グループが結集。

午前中は山梨リニア実験線工事を視察

10月6日(土) 連絡会第12回定例会

18:00 多摩市民館7F市民活動支援室

10月7日(日) 麻生リニアシンポジウム

18:00～麻生市民館大会議室

講演:上田昌文氏

10月21日(日) 町田リニアシンポジウム

13:00～町田文学館ことばらんど